



JSDA

日本証券業協会

Japan Securities Dealers Association

松下幸之助翁の「一億総株主化の理想」 ～株式の大衆化が日本人を豊かにする～

2018年11月20日

日本証券業協会



- 半世紀以上前に松下幸之助翁は、健全な個人株主を増やし、いわば「一億総株主化」を実現することが理想であり、これにより、国民全体で経済と社会の活性化を図ることの重要性を説いた。多くの国民が株式を中長期保有するようになれば、経済成長の成果を広く国民が享受し、社会全体として好循環を実感できるようになると考えられる。
- 近年、NISAの普及・定着、上場株式の投資単位の引下げなど、個人投資家が投資しやすい環境整備が進んでいる。また、低金利が続く中、預貯金と比べて高い配当利回りが期待できる企業が数多くあるほか、株主優待の導入企業が1400社を超えるなど、投資魅力を高め、個人投資家の中長期保有を促す動きも広がっている。
- 個人投資家について、「中長期的な資産形成」を促進する、さらには「中長期投資」、「中長期保有」を促進することは、政策的にも、また証券会社の経営上も重要であると考えます。
- 一方、ショートターミズム(短期志向)への批判に対して、中長期的な企業価値の向上と長期投資に促進に向け、官民をあげた様々な取り組みも進展している。
- 松下幸之助翁の「一億総株主化の理想」は、長期保有の促進に向けた取り組みを行っていく場合、長期投資の先にある証券市場のトータルビジョンをどのように構想していくかを検討する際の手がかりにもなるのではないかと考える。

○「株式の大衆化」の意義

- 社会的に見て株主の数が多くなるということは非常に望ましいことであって、極言すれば、国民のすべてがどこかの会社の株主であるというようなところまでもっていければ、これにこしたことはない。

(⇒ 一億総株主化の発想)

- なるべく多くの国民が株をもった形態において、国家産業の興隆に寄与するということを、強く推し進めていくことが肝要だと思うのである。そうすれば、株主は投資した株式から受ける利益だけでなく、投資することによって産業が興隆し社会が繁栄するところから起こる、いわゆる社会共同の繁栄による利益なり恩恵を受けることができる。つまり大衆は、株をもつことによって二重の利益を得られるわけである。
- そのような株式の大衆化、長期化によってこそ、真の株主安定化ということも実現できる。
- 人々はみな自分の仕事からの収入を得る一方で、株主となって配当を受けるというような状態がおそらく生まれてくるであろうし、また生み出さなければならないと思う。そこに私は、国民全体の安定と繁栄を生み出す一つの道があるように思うのである。

(⇒ 勤労所得に加え金融所得の重要性)

○ 実現に向けた政策

- ・ 政府は、すべての国民に株式をもつことを積極的に奨励、要望し、それを実現するための具体的な奨励策、優遇策というものを大いに打ち出すことが大事だと思う。
- ・ たとえば、株をもつための融資をすとか、奨励金を出すとか、あるいは一定数以下の少数株の株主の場合は特に税金をタダにするとか、きめ細かい政策を、適宜講じていかなければならない。

(⇒ NISAに相当)

- ・ 一度買った株をできるかぎり手放さないように、株主を指導していくことも大事であろう。こういうことを、政府は国家百年にわたる経済の基本政策の一つとして、力強く進めていかねばならないと思う。

○ 長期保有と証券会社

- ・ 証券会社の使命というものは、株式の大衆化を実現するために大衆的個人株主をできるだけ多くつくっていくことだと思うのである。
- ・ 長期安定株主を多くして、株価の上下の利ざやで儲けるような株主を少なくしていけば、証券会社の経営が成り立たなくなるのではないかという一つの心配をもつ向きがあるかもしれない。しかし、株式の大衆化によって、非常に多数の株主がいるので、百人の株主が月に1回売り買いするよりも、1万人の株主が年に1回売り買いするほうが、証券会社としての株式取り扱いは多くなる。
- ・ 投機的な考えをもつ株主は少なく、健全な考えの株主が多くなれば、証券会社はむしろ堅実な繁栄、発展を遂げ、証券会社としての崇高な使命を、より高く達成できるようになるのではあるまいか。

下線とカッコ書き記載は日本証券業協会作成

○ 株主と企業との対話

- ・ 株式会社が健全にして安定した経営を行なっていくことが、国家国民の繁栄、発展のためには非常に重要であるが、それには、その前提として、株主もまた健全にして安定した姿でなければならない。
- ・ 株主というものは、出資した会社から配当を受け取る一方で、会社の経営を見守り、時に応じては叱咤激励し、その業容の伸展を楽しみにするというような健全な考え方のもとに株主になるということが、もっと強調されてもよいのではなかろうか。

(⇒ スチュワードシップ・コード、コーポレートガバナンス・コードの考え方)

○ 株主のあるべき姿

- ・ 株主は、株に投資することによって国家の産業に参画し、その発展に寄与、奉仕するといういわば尊い使命を持っているのである。そして、その使命を全うすることによって正当な配当を受けるわけである。株主は、こういう株主本来の使命というものを正しく自覚、認識して、原則としては、いわば永久投資するという考え方から株を持つことが大事だと思うのである。
- ・ 株価が上がれば売り、下がったら買うということは、一面確かに考えてもよいことかもしれないが、それはあくまでも必要やむをえざる場合に限るべきだといってよい。もし株主が原則として永久投資というか、二代も三代も同じ会社の株をもち続けるという確固たる信念をもっておれば、私は決して株主が軽視されるようなことはないと思うのである。

(⇒ 企業を応援する長期投資)

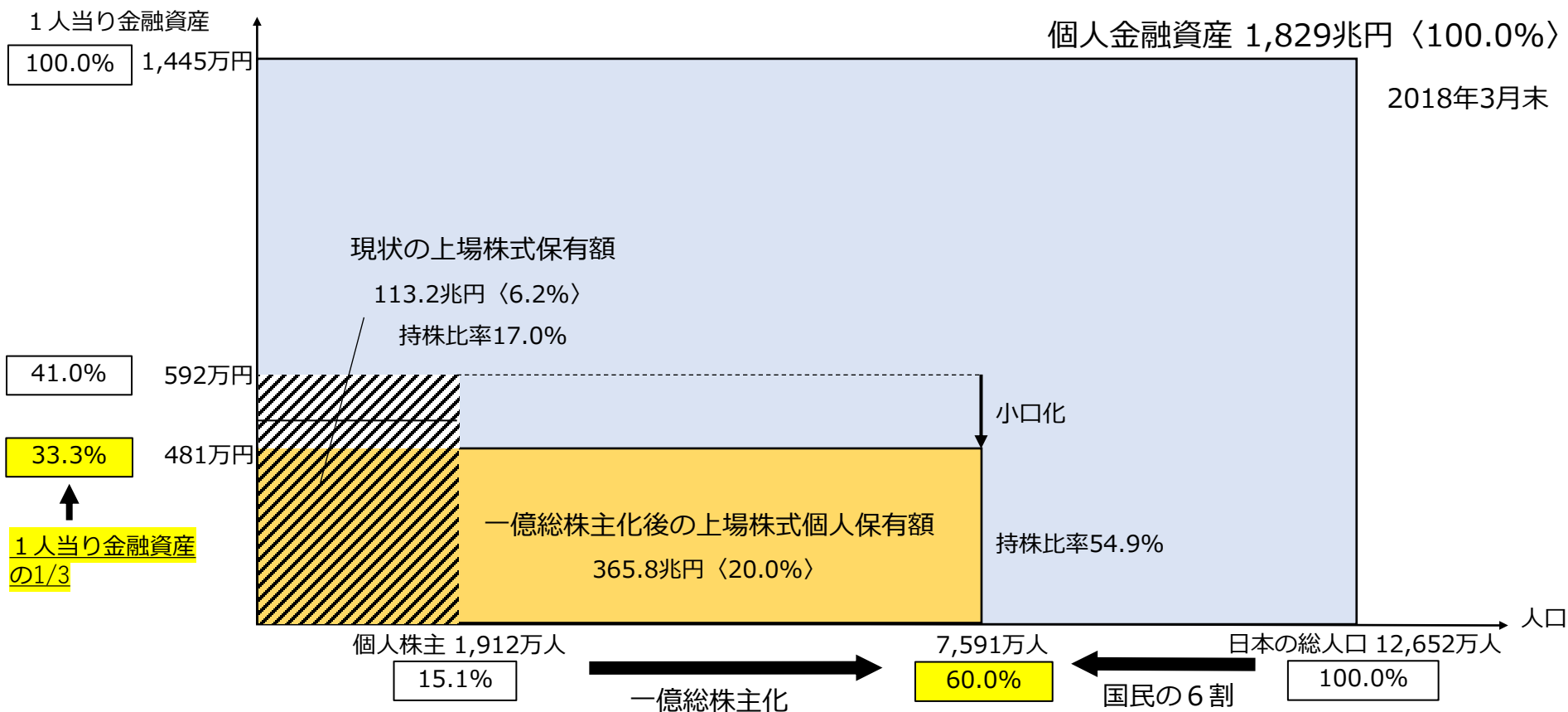
【参考】「株式の大衆化」のイメージ

○ 「私の夢・日本の夢 21世紀の日本」(昭和51年刊) 第二章における「株式の大衆化」のイメージ
(「株式の大衆化で新たな繁栄を」を承継したもの)

- ・ 約6割の世帯が株式を保有、貯金の3分の1が株式
- ・ 企業からみると、個人持株比率約60%

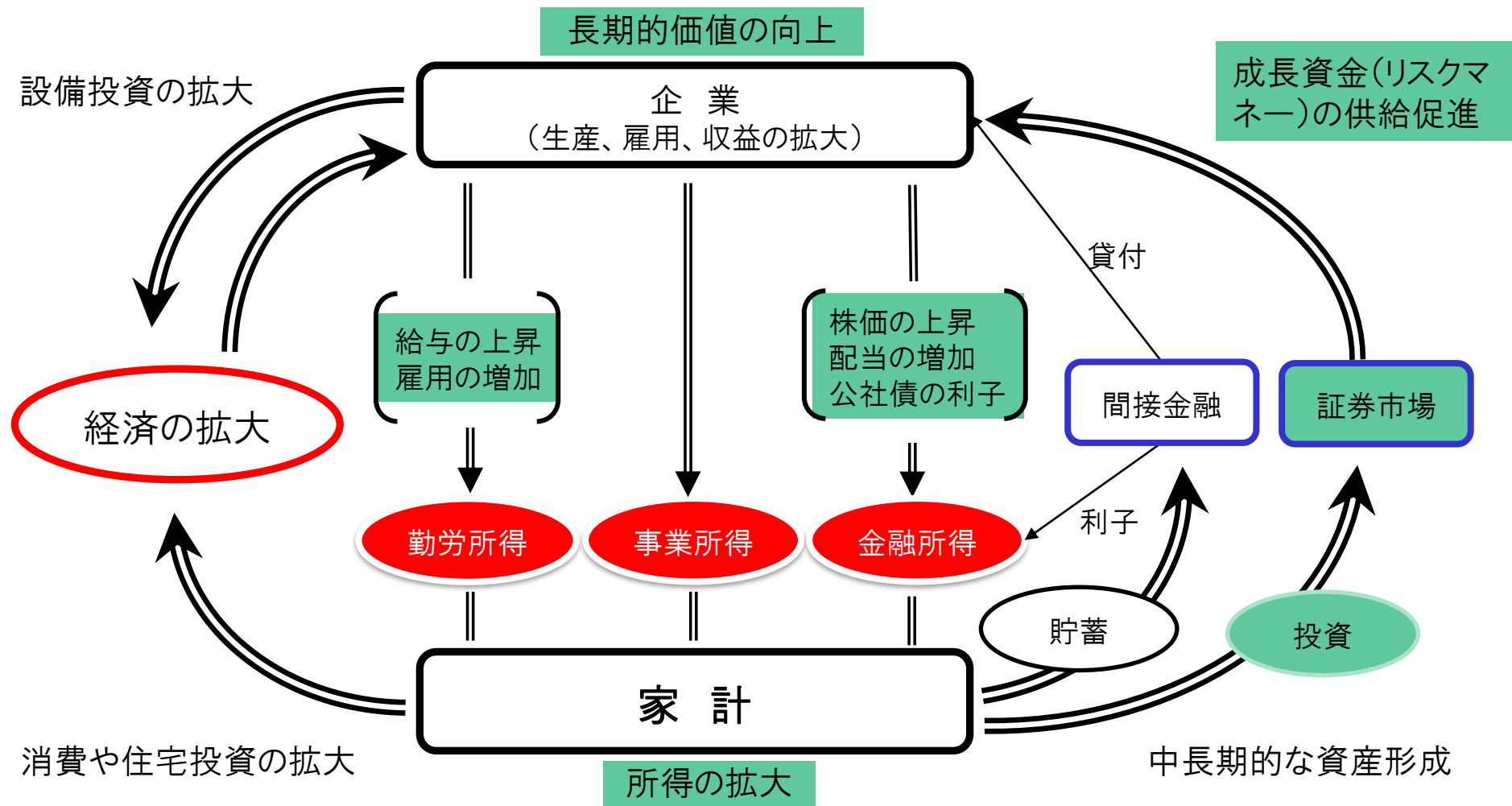
(現在のデータに基づく試算)

日本証券業協会作成



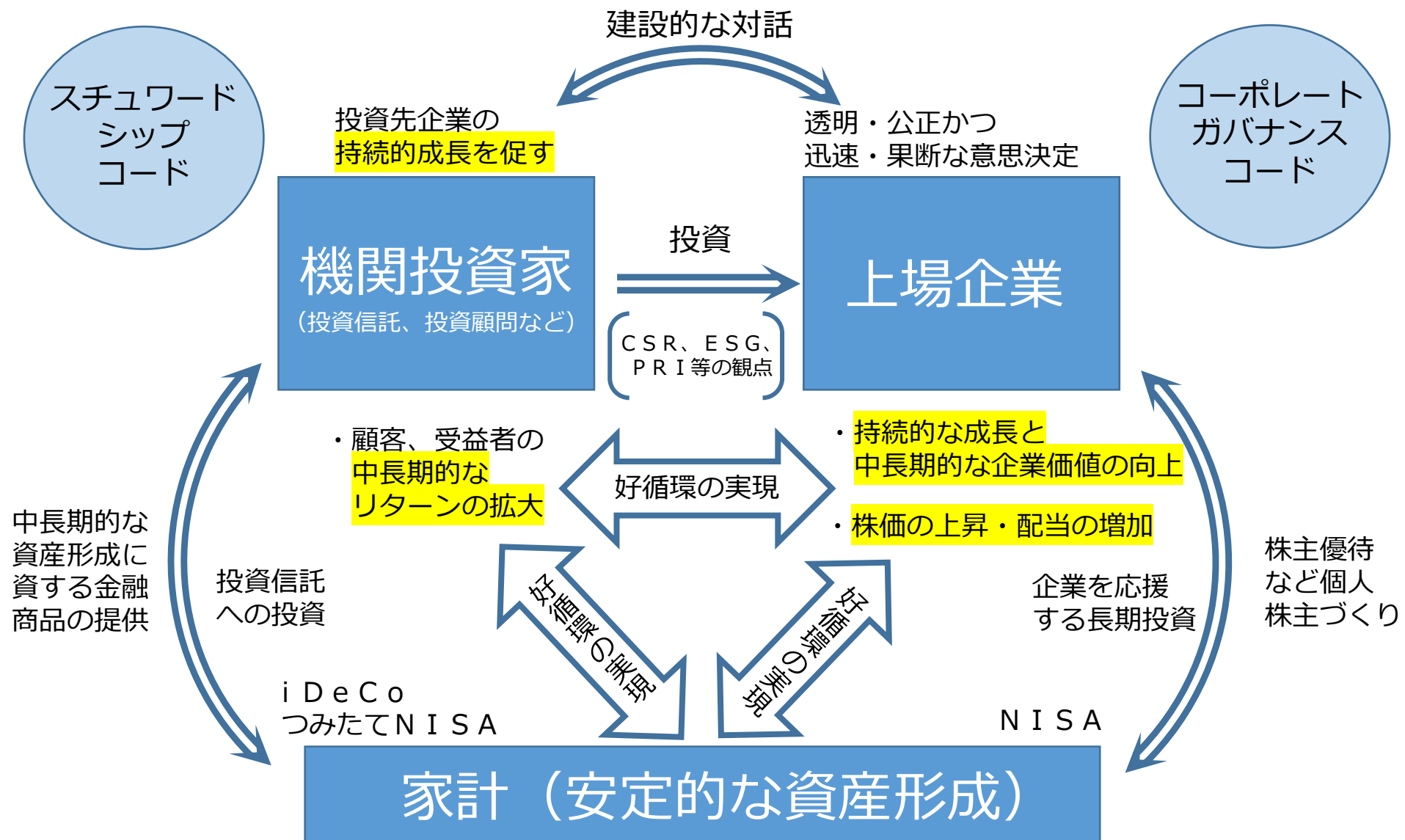
国民経済の成長と発展

証券市場の役割



【参考】証券投資による家計の安定的な資産形成の構図

とう
10/4は
証券投資の日



※販売業者は、「顧客本位の業務運営」を徹底